

H27年～H28年 研究所概要

研究所長：松原 洋一

1. 研究所ミッション

独立行政法人国立成育医療研究センターは、「受精・妊娠に始まって、胎児期、新生児期、小児期、思春期を経て次世代を育成する成人期へと至る、リプロダクションによってつながれたライフサイクルに生じる疾患(成育疾患)に対する研究と医療を推進する」ことを目的に、国立成育医療センターとして平成14年3月に設立された。その後、平成22年4月1日より独立行政法人国立成育医療研究センターとして発足し、平成27年度4月1日より、国立研究開発法人国立成育医療研究センターとして再発足することになった。しかし当センターの目的は組織形態が変わっても変わることはなく、この目的を達成するために、病院と研究所が密に連携して疾病に悩む方々や家族に対し、安全性と有効性を十分に検証しつつ高度先駆的医療の開発と提供を行ってきている。同時に小児救急医療、周産期医療を含めた成育医療全般に関して、チーム医療、包括的医療に配慮したモデルを確立し、これらを全国的に展開してきた。この中で研究所は成育医療に関連する疾患の原因の解明と治療法の開発、さらには早期発見・予防法の開発を目標に研究を進めていく。具体的には受精に始まる発生、分化の過程、身体及び臓器の発育と発達、精神及び社会性の発達等の機序を解明し、これらの過程の異常から生じる不妊、不育、先天異常、成長・発達障害等の問題を研究面から解決していくことを使命と考えている。なお、平成27年度により、国家プロジェクトとして当センターが中心的な役割を演じることが期待されている分野であるゲノム医療に関して、新たな研究部(ゲノム医療研究部)を設置している。

2. 組織・人事

平成26年度→平成27年度

<退職者>

医療機器開発部長(千葉 敏雄)→ 後補充なし、病院長併任

母児感染研究部長(藤原 成悦)→ 後補充なし、ゲノム医療研究部へ組織換え

先端医療開発室長(絵野沢 伸)→ 後補充なし

アレルギー研究室長(松田 明生)→ AMEDへ出向、平成28年度後補充

免疫療法研究室長(阿部 淳)→ 平成28年度後補充

胎児発育研究室長(前原佳代子)→ 平成28年度後補充

<新規採用者>

ゲノム医療研究部長(要 匡)

成育疾患ゲノム研究室長(黒木 陽子)

平成27年度→平成28年度

<退職者>

共同研究管理室長(田所 恵子)→ 後補充なし

基礎内分泌研究室長(勝又 規行)

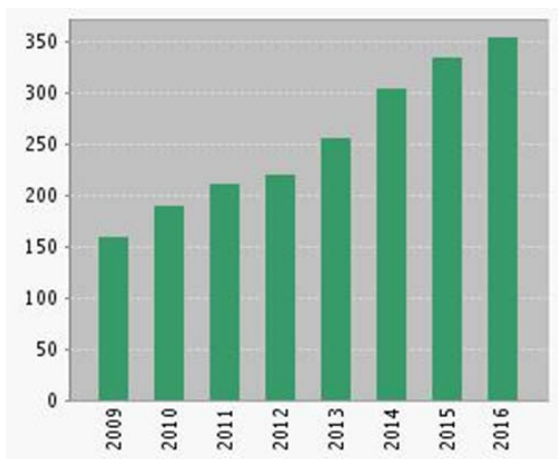
マスキング研究室長(原田 正平)

<新規採用者>

マスキング研究室長(但馬 剛)

基礎内分泌研究室長(鳴海 覚志)
 胎児発育研究室長 (河合 智子)
 免疫療法研究室長 (野村伊知郎)
 アレルギー研究室長(森田 英明)

3. 研究業績



左図は、厚生労働省で実施されている独立行政法人通則法(平成 11 年法律第 103 号)第 35 条の 8 の規定に基づき準用する第 31 条第1項の規定に基づく国立研究開発法人国立成育医療研究センターの年度計画の評価委員会において使用が義務づけられている Web of Science データベースをもちいて、2009 年より 2016 年までの英文業績数(学会抄録と訂正文を除く)の推移をグラフ化したものである。

2009 年の 161 本から 190 本、212 本、222 本、257 本、305 本、336 本、355 本と順調に論文発表数が増加していることがわかる。なお、研究所と病院の共同研

究成果が大半を占めるようになってきていることもあり、研究所単独の論文数として切り分けて検索することはできない。しかし、被引用回数上位の論文のほとんどは研究所所属著者によるものであった(当日供覧)。2015 年～2016 年に発表された論文の中で被引用回数が最も多かった論文は、森臨太郎政策科学部長が共著者の一人である、最近、25 年間の死因の推移に関するシステムティックレビュー論文(Naghavi M, et al. Lancet 2015、2017 年 2 月現在被引用回数791回)であった。成育所属研究者が筆頭著者で、被引用回数の多かった論文としては、免疫アレルギー感染研究部森田英明室長らによるアレルギー疾患治療薬標的として開発の進んでいる新しいサイトカインであるインターロイキン 33 は、自然リンパ球を刺激して炎症を増強するものの、今まで炎症惹起細胞と考えられていたマスト細胞を刺激すると制御性 T 細胞を増加させ炎症が抑制されることを示した論文(Morita H, et al. Immunity 2015)の 17 回、小児血液・腫瘍研究部上野瞳上級研究員らによる、小児腎臓がんの一種、腎明細胞肉腫に特徴的な遺伝子異常を特定した論文(Ueno H, et al. Nat Genet 2015)の 16 回などであった。

大きく報道された成果としては、病院アレルギー科との共同で、アレルギー疾患発症高リスクのアトピー性皮膚炎乳児に対して 6 ヶ月から固ゆで卵を少量ずつ与えたところ鶏卵アレルギーの発症頻度が 8 割減少したという介入試験成果(Natsume et al., Lancet 2016 年オンライン発表、NHK ほかにテレビ新聞各社報道、朝日、読売は一面掲載)およびヒト ES 細胞から食物を送り出すような動きや栄養吸収作用をもつミニ小腸を作成した成果(Uchida H, et al. J Clin Invest Insight 2017, NHK ほかにテレビ新聞各社報道、朝日新聞朝刊一面掲載)などがあげられる。

そのほか、研究所の活動として特記すべきこととして、IRUD-P(未診断疾患イニシアチブ)遺伝子拠点事業の一環として全国の医療機関から原因不明症例試料を収集し解析を開始したことが第一にあげられる。

WEB OF SCIENCE™



結果の分析

[<<前のページに戻る](#)

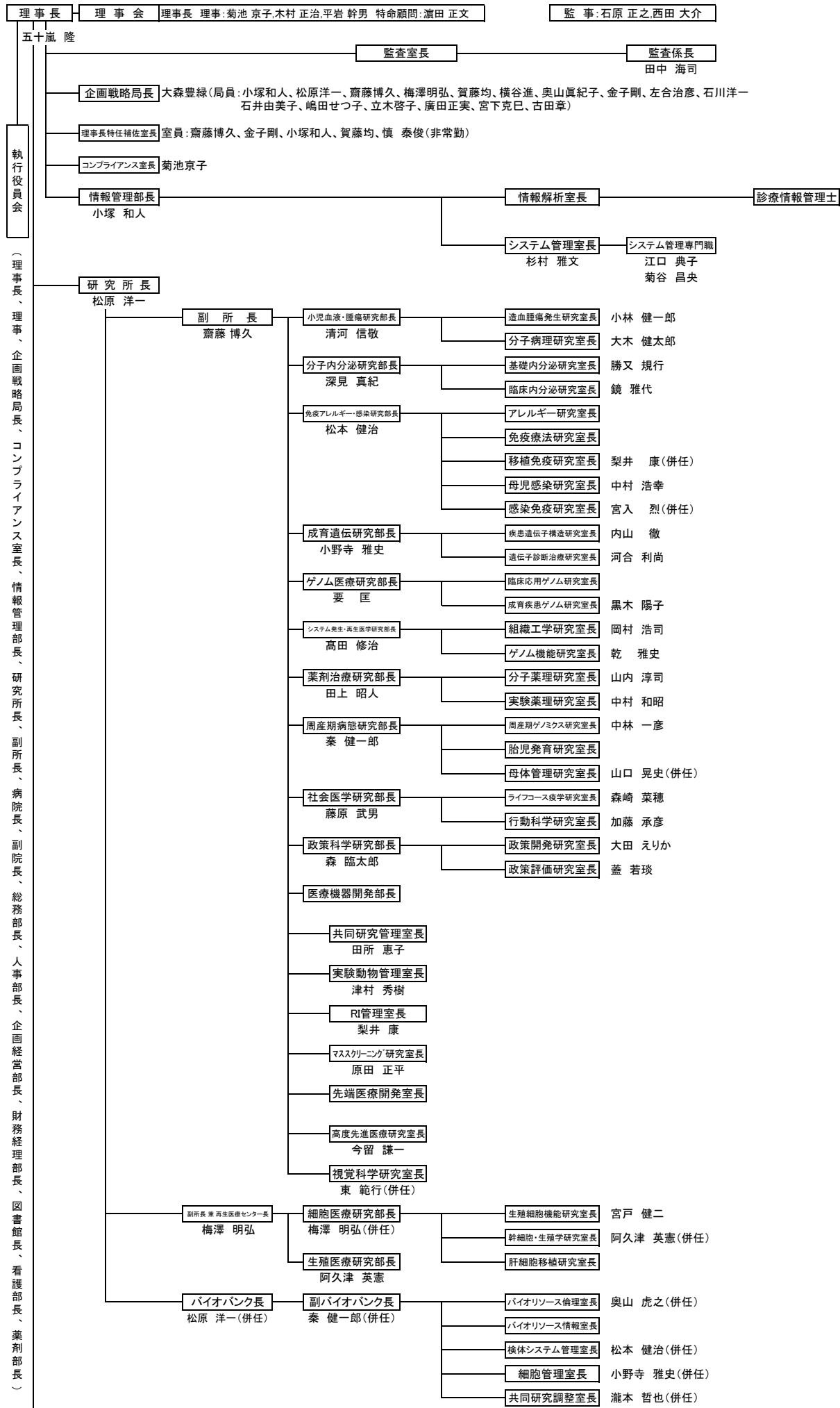
2,038 レコード。 著者所属: (Natl Res Inst Child Health Dev) OR 著者所属: (Natl Ctr Child Health Dev)
 分析: 所属機関-拡張: (NATIONAL CENTER FOR CHILD HEALTH DEVELOPMENT JAPAN) AND [除外]: ドキュメントタイプ: (CORRECTION OR MEETING ABSTRACT) AND 出版年: (2016 OR 2012 OR 2009 OR 2015 OR 2011 OR 2014 OR 2010 OR 2013)

このフィールドでレコードをランク付け:	表示オプションの設定:	並び替え条件:
<input type="text" value="出版年"/> 研究分野 出版物名 Web of Science の分野	上位 <input type="text" value="10"/> 検索結果。 最小レコード件数 (しきい値) : <input type="text" value="2"/>	<input checked="" type="radio"/> レコード件数 <input type="radio"/> アルファベット順

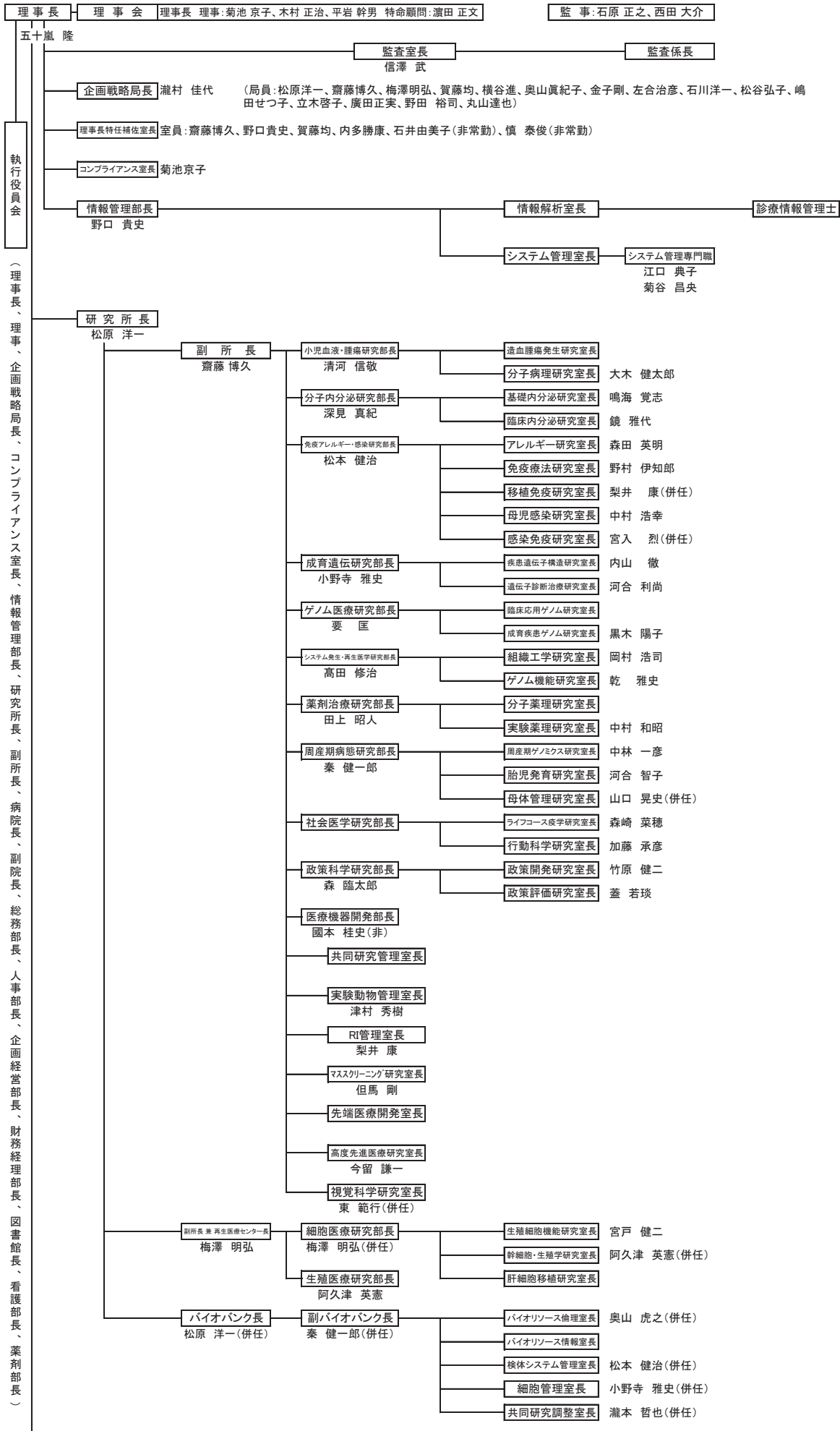
以下のチェックボックスを使用してレコードを表示します。選択したレコードを表示するか、除外（して他のレコードを表示）できます。

<input checked="" type="button" value="レコードを表示"/> <input checked="" type="button" value="レコードを除外"/>	フィールド: 出版年 レコード件数 % / 2038 棒グラフ	<input type="button" value="分析データをファイルに保存"/> <input type="radio"/> テーブルに表示するデータ行 <input checked="" type="radio"/> すべてのデータ行 (最大 200,000)
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	2016 355 17.419 % 2015 336 16.487 % 2014 305 14.966 % 2013 257 12.610 % 2012 222 10.893 % 2011 212 10.402 % 2010 190 9.323 % 2009 161 7.900 %	<input type="button" value="分析データをファイルに保存"/> <input type="radio"/> テーブルに表示するデータ行 <input checked="" type="radio"/> すべてのデータ行 (最大 200,000)
<input checked="" type="button" value="レコードを表示"/> <input checked="" type="button" value="レコードを除外"/>	フィールド: 出版年 レコード件数 % / 2038 棒グラフ	<input type="button" value="分析データをファイルに保存"/> <input type="radio"/> テーブルに表示するデータ行 <input checked="" type="radio"/> すべてのデータ行 (最大 200,000)

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター組織図



執行役員会
(理事長、理事、企画戦略局長、コンプライアンス室長、情報管理部長、研究所長、副所長、病院長、副院長、総務部長、人事部長、企画経営部長、財務経理部長、図書館長、看護部長、薬剤部長)



人事異動(H27.1.1~H28.12.31)

年月日	職名	氏名	事由	備考
H27.2.1	行動科学研究室長	加藤 承彦	採用	
H27.2.1	社会医学研究部長	藤原 武男	配置換	
H27.2.1	政策科学研究部長	森 臨太郎	配置換	
H27.2.1	ライフコース疫学研究室長代理	森崎 菜穂	採用	
H27.2.1	政策開発研究室長	大田 えりか	配置換	
H27.2.9	研究員	田中 卓	配置換	視覚科学研究室
H27.2.9	視覚科学研究室長	東 範行	併任	
H27.2.28	研究員	田埜 慶子	辞職	細胞医療研究部
H27.3.1	胎児発育研究室長	前原 佳代子	再任用	
H27.4.1	ゲノム医療研究部長	要 匡	採用	平成32年3月31日迄
H27.4.1	研究員	Balogun Olukunmi	採用	政策科学研究部
H27.4.1	研究員	五十嵐 友香	採用(再任用)	平成28年3月31日迄
H27.4.1	研究員	市田 悠	採用	成育遺伝研究部
H27.4.1	研究員	三瓶 舞紀子	採用	社会医学研究部
H27.4.1	研究員	中島 啓行	採用	細胞医療研究部 平成28年3月31日迄
H27.4.1	研究員	中山 早苗	採用	細胞医療研究部
H27.4.1	研究員	西尾 佳明	採用	RI管理室
H27.4.1	研究員	盛一 享徳	採用	小児慢性特定疾病情報室 平成32年3月31日迄
H27.4.1	実験薬理研究室長	中村 和昭	採用(再任用)	平成32年3月31日迄 臨床研究ネットワーク推進室
H27.4.1	上級研究員	野村 伊知郎	採用	受託より:免疫アレルギー研究部
H27.4.1	分子病理研究室長	大木 健太郎	採用	小児血液・腫瘍研究部:平成32年3月31日迄
H27.4.1	ライフコース疫学研究室長	森崎 菜穂	配置換	ライフコース疫学研究室長代理より
H27.4.1	政策評価研究室長	蓋 若瑛	採用	政策科学研究部:平成32年3月31日迄
H27.4.30	研究員	シヤールク サデク	辞職	政策科学研究部
H27.6.1	成育疾患ゲノム研究室長	黒木 陽子	採用	成育疾患ゲノム研究室
H27.6.3	研究員	望月 悠	辞職	臨床研究開発センターデータ管理部小児がん登録室
H27.7.1	上級研究員	上野 瞳	配置換	小児・血液腫瘍研究部(研究員→上級研究員)
H27.7.1	小児血液・腫瘍研究部	加藤 元博	併任	研究所
H27.8.31	研究員	五十嵐 友香	辞職	研究所成育遺伝研究部
H27.9.1	社会医学研究部長	藤原 武男	再任用	社会医学研究部(任期5年)
H28.3.31	研究員	岩崎 師壽江	任期満了	RI管理室
H28.3.31	研究員	市田 悠	辞職	成育遺伝研究部
H28.3.31	マスキング研究室長	原田 正平	定年退職	マスキング研究室
H28.3.31	基礎内分泌研究室長	勝又 規行	定年退職(非常勤へ)	分子内分泌研究部
H28.3.31	共同研究管理室長	田所 恵子	定年退職(非常勤へ)	共同研究管理室
H28.3.31	社会医学研究部長	藤原 武男	辞職	研究所
H28.3.31	政策開発研究室長	大田 えりか	辞職	研究所政策科学研究部
H28.3.31	造血腫瘍発生研究室長	小林 健一郎	辞職	小児血液・腫瘍研究部
H28.4.1	医療機器開発部長	國本 桂史	採用	医療機器開発部
H28.4.1	基礎内分泌研究室長	鳴海 寛志	採用	分子内分泌研究部(任期5年)
H28.4.1	研究員	三浦 茜	採用	成育遺伝研究部
H28.4.1	研究員	勝又 規行	再任用(常勤より)	分子内分泌研究部
H28.4.1	研究員	田所 恵子	再任用(常勤より)	共同研究管理室
H28.4.1	マスキング研究室長	但馬 剛	採用	マスキング研究室(任期5年)
H28.4.1	免疫アレルギー・感染部長	松本 健治	再任用	免疫アレルギー・感染部
H28.4.1	高度先進医療研究室長	今留 謙一	再任用	高度先進医療研究室
H28.4.30	上級研究員	野村 伊知郎	辞職	免疫アレルギー・感染研究部
H28.5.1	胎児発育研究室長	河合 智子	採用	周産期病態研究部胎児発育研究室
H28.5.1	免疫療法研究室長	野村 伊知郎	採用	免疫アレルギー・感染研究部免疫療法室
H28.6.30	研究員	竹原 健二	辞職	政策科学研究部
H28.7.1	研究員	BALOGUN OLUKUNMI	採用	政策科学研究部
H28.7.1	政策開発研究室長	竹原 健二	採用	政策科学研究部政策開発研究室
H28.7.1	政策開発研究室長	竹原 健二	併任	臨床研究開発センター臨床疫学部EBM推進室長
H28.8.1	分子内分泌研究部長	深見 真紀	再任用	分子内分泌研究部
H28.8.31	研究員	加藤 朋子	辞職	システム発生・再生医学研究部
H28.9.1	研究員	寺尾 美穂	採用	システム発生・再生医学研究部
H28.9.1	研究員	福田 篤	配置換	研究員→上級研究員
H28.9.1	研究員	柳原 盛二	再任用	データ管理部データ管理室(任期3年)
H28.9.30	研究員	BALOGUN OLUKUNMI	辞職	政策科学研究部
H28.9.30	研究員	Kyaw Htet Aung	辞職	薬剤治療研究部
H28.9.30	分子薬理研究室長	山内 淳司	辞職	薬剤治療研究部分子薬理研究室
H28.10.1	システム発生・再生医学研究部長	高田 修治	再任用	システム発生・再生医学研究部
H28.11.30	遺伝子診断治療研究室長	河合 利尚	辞職	12/1免疫科医長で採用
H28.12.31	周産期ゲノミクス研究室長	中林 一彦	任期満了	周産期病態研究部周産期ゲノミクス研究室

資料4 セミナー開催状況(平成27年・平成28年)

<定例セミナー>

1. 日時:平成27年6月3日(水)

演者1: 本村 健一郎 (免疫アレルギー・感染研究部)

演題1: 満期胎盤由来 trophoblast の安定培養系の確立

演者2: 松本 健治 (免疫アレルギー・感染研究部)

演題2: 新しい免疫細胞: 自然リンパ球 (innate lymphoid cell) について

2. 日時:平成27年6月10日(水)

演者1: 中村 明枝 (分子内分泌研究部)

演題1: 原因不明のSGA性低身長症に対する包括的メチル化解析

演者2: 五十嵐 麻希 (分子内分泌研究部)

演題2: 性分化疾患患者における発症責任遺伝子変異の同定

演者3: 宮戸 真美 (分子内分泌研究部)

演題3: 性腺におけるMAMLD1の機能

3. 日時:平成27年6月24日(水)

演者1: 谷口 明德、石橋 武士 (小児血液・腫瘍研究部)

演題1: 急性リンパ芽球性白血病 (ALL) の新規ドライバー分子 ATF7IP-PDGFRB の機能解析 # 2

演者2: 寺田和樹、牛腸義宏 (ごちょう) (小児血液・腫瘍研究部)

演題2: 急性リンパ芽球性白血病 (ALL) の新規融合遺伝子 EP300-ZNF384

4. 日時:平成27年7月8日(水)

演者: 中村 和昭 (薬剤治療研究部)

演題: in vitro での肝細胞の高機能化に向けた試み

5. 日時:平成27年9月2日(水)

演者1: Sirirat Takahashi (成育遺伝研究部)

演題1: Factors influencing the genotoxic potential of gene transfer vectors in primary murine hematopoietic cells

演者2: 安田 徹 (成育遺伝研究部)

演題2: 小児神経疾患ニーマンピック病C型の発症メカニズムに関する研究

6. 日時:平成27年9月16日(水)

演者1: 岡村浩司 (システム発生・再生医学研究部)

演題1: 最近の次世代シーケンサのデータと解析手法でできるようになったこと

演者2: 高田修治、寺尾美穂、玉野萌恵 (システム発生・再生医学研究部)

演題2: ゲノム編集でできること、できそうなこと、できなさそうなこと、できないこと

7. 日 時:平成 27 年 9 月 30 日(水)

演 者: 宮戸 健二 (細胞医療研究部)

演 題: 配偶子融合の分子メカニズム -卵由来エキソソームによる配偶子融合の制御機構-

8. 日 時:平成 27 年 10 月 28 日(水)

演 者: 蓋 若琰 (政策科学研究部)

演 題: 医療技術評価と臨床、政策における意思決定

9. 日 時:平成 27 年 11 月 11 日(水)

演者 1: 要 匡 (ゲノム医療研究部)

演題 1: ゲノム医療研究部の紹介

演者 2: 黒木陽子 (ゲノム医療研究部)

演題 2: ゲノム解析技術の進展に伴うヒトゲノム配列データの高精度化と多様性
- Gold genome から Platinum genome へ -

10. 日 時:平成 27 年 12 月 14 日(月)

演 者: 蔡 松潔 (R I 管理室・移植免疫研究室)

演 題: マウス iPS 細胞から制御性樹状細胞の作成及び同種心移植後免疫寛容誘導の効果について

11. 日 時:平成 27 年 12 月 22 日(火)

演 者: 加藤 承彦 (社会医学研究部)

演 題: 日本の子育て環境の現状と改善点

12. 日 時:平成 28 年 3 月 3 日(木)

演者 1: 増田 彩子 (周産期病態研究部)

演題 1: ヒト子宮内膜腺上皮細胞及び間質細胞の新たな分離精製法の確立

演者 2: 春日 義史 (周産期病態研究部)

演題 2: Genetic Risk Score を用いた産後糖代謝異常スクリーニング検査の確立

演者 3: 漆山 大知 (周産期病態研究部)

演題 3: 子宮内感染症例の羊水マイクロビオーム

13. 日 時:平成 28 年 5 月 18 日(木)

演者 1: 深見 真紀 (分子内分泌研究部)

演題 1: 分子内分泌研究部のクリニカルシーケンス・分子細胞遺伝学検査・表現型解析

演者 2: 鏡雅代・中村明枝 (分子内分泌研究部)

演題 2: インプリンティング疾患の遺伝子診断

15. 日 時:平成 28 年 6 月 8 日(水)

演者 1: 二村恭子 (免疫アレルギー・感染研究部)

演題 1: 毛根でアトピー性皮膚炎や尋常性乾癬を診断する

演者 2: 岡田 直子 (免疫アレルギー・感染研究部)

演題 2: 涙液を用いたアレルギー性結膜炎の新規バイオマーカーの検討

16. 日 時:平成 28 年 6 月 22 日(水)

演者 1: 大木 健太郎 (小児血液・腫瘍研究部)

演題 1: 小児急性リンパ芽球性白血病 (ALL) における ZNF384 関連融合遺伝子の頻度と特徴

演者 2: 上野瞳 (小児血液・腫瘍研究部)

演題 2: 小児腎明細胞肉腫に特徴的な新規遺伝子異常の発見

17. 日 時:平成 28 年 7 月 13 日(水)

演 者: Kyaw Htet Aung (薬剤治療研究部)

演 題: Developmental Neurotoxicity of Arsenic: Cognitive and Behavioral Consequences of Early Life Exposure

18. 日 時:平成 28 年 7 月 27 日(水)

演者 1: 三瓶 舞紀子 (社会医学研究部)

演題 1: 本邦における子ども虐待へのポピュレーションアプローチ

演者 2: 加藤 承彦 (社会医学研究部)

演題 2: 男女の役割分担と育児への関わりが出生に与える影響の検証

19. 日 時:平成 28 年 9 月 14 日(水)

演者 1: 内山 徹 (成育遺伝研究部)

演題 1: アデノシンデアミナーゼ (ADA) 欠損症への遺伝子治療における遺伝子導入細胞の解析

演者 2: 後藤 文洋 (成育遺伝研究部)

演題 2: 重症複合免疫不全症 (SICD) の新生児スクリーニング

20. 日 時:平成 28 年 9 月 28 日(水)

演 者: 齋藤 剛志 (システム発生・再生医学研究部)

演 題: Dlk1-Dio3 ゲノムインプリント領域を制御する IG-DMR の機能配列の同定

21. 日 時:平成 28 年 10 月 19 日(水)

演 者: 福田 篤 (細胞医療研究部)

演 題: “X” の探求: インプリンティングスイッチによる胚性致死プログラムの書き換え

22. 日 時:平成 28 年 11 月 29 日(水)

演 者: 竹原 健二 (政策科学研究部)

演 題: 妊産婦のパートナーにおけるメンタルヘルスの現状と今後の課題

23. 日 時:平成 28 年 11 月 12 日(水)

演者 1: 加藤 紀子 (周産期病態研究部)

演題 1: ヒト子宮内膜間質細胞の脱落膜化エピゲノム動態

演者 2: 佐藤 泰輔 (周産期病態研究部)

演題 2: 妊婦末梢血中の胎児由来細胞を用いた遺伝子診断への挑戦

演者 3: 谷口 公介 (周産期病態研究部)

演題 3: ヒト胎盤エピトランスクリプトーム解析

24. 日 時:平成 29 年 1 月 18 日(水)

演者 1: 但馬 剛 (マススクリーニング研究室)

演題 1: 脂肪酸代謝異常症の新生児スクリーニング: 乳幼児の急死を防ぐために

演者 2: 中島 英規 (マススクリーニング研究室)

演題 2: 質量分析装置を用いた新規マススクリーニング系の開発

25. 日 時:平成 29 年 2 月 21 日(火)

演者 1: 要 匡 (ゲノム医療研究部)

演題 1: 未診断疾患へのアプローチ

演者 2: 柳 久美子 (ゲノム医療研究部)

演題 2: Long-PCR 法を用いた遺伝子解析法の有用性

<特別セミナー>

1. 日 時:平成 27 年 1 月 9 日(金)

演 者: Leslie G. Biesecker, 米 NIH

演 題: 1) 次世代シーケンサーの臨床応用: 米国 NIH における ClinSeq プロジェクト
2) 疾患発症に関わる遺伝子モザイクの新知見

2. 日 時:平成 27 年 1 月 23 日(金)

演 者: Prof. Naohiro Terada Department of Pathology, Immunology and Laboratory Medicine,
University of Florida College of Medicine

演 題: Patient iPSC research at University of Florida: Progresses and challenges

3. 日 時:平成 27 年 2 月 19 日(木)

演 者: 石原 理 埼玉医科大学産科婦人科学 教授

演 題: 生殖医療の National と Global-Revisited

4. 日 時:平成 27 年 3 月 27 日(金)

演 者: 高橋和利先生: 京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) 初期化機構研究部門

演 題: ヒト体細胞核初期化の分子機構

5. 日 時:平成 27 年 3 月 30 日(月)

演 者: Aung Ko Win, MBBS MPH PhD Research Fellow

National Health and Medical Research Council Early Career Fellow
The University of Melbourne
Australia

演 題: Hereditary Colorectal Cancer: Past, Present and Future

6. 日 時:平成 27 年 5 月 27 日(水)

演 者: Chelsey S. Simmons, Ph.D.

Assistant Professor, Department of Mechanical & Aerospace Engineering. University of Florida

演 題: Functional Assays to Quantify Contractility of Stem Cell-Derived Muscle Cells

7. 日 時:平成 27 年 6 月 1 日(月)

演 者: 田中 聡先生

演 題: 熊本大学 発生医学研究所・腎臓発生分野・助教

8. 日 時:平成 27 年 6 月 18 日(木)

演 者: 鎌谷 直之先生 株式会社スタージェン 代表取締役会長

演 題: ゲノム・遺伝子研究の臨床応用はどこまで進む?

9. 日 時:平成 27 年 7 月 16 日(木)

演 者: 喜多和正先生: 京都府立医科大学大学院医学研究科実験動物センター教授

演 題: 動物実験実施者等における教育訓練: 動物愛護法改正から捏造問題などの最新情報について

10. 日 時:平成 27 年 7 月 27 日(月)

演 者: マクシミリアン ミュンケ博士 米国 NIH ヒトゲノム研究所遺伝医学部門長

演 題: 全前脳胞症 (ホロプロセンセファリー) の遺伝子とゲノム

11. 日 時:平成 27 年 10 月 2 日(金)

演 者: Klaus-Michael Debatin 教授 (ドイツ ウルム大学小児科主任教授)

演 題: Cell death sensitivity in the NOD/ SCID/hu-ALL model

12. 日 時:平成 27 年 11 月 6 日(金)

演 者: 林 良樹先生: 筑波大学・生命領域学際研究センター

演 題: メタボロミクスからみえてきたショウジョウバエ始原生殖細胞の代謝的性質とその役割

13. 日 時:平成 28 年 1 月 8 日(金)

演 者: 高木 利久 教授 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻

演 題: 我が国におけるヒトゲノムデータベースの開発とその国際動向

14. 日 時:平成 28 年 1 月 18 日(月)

演 者: 山本圭一郎 国立国際医療研究センター 臨床研究試料支援室 上級研究員

- 演 題: ヒト ES 細胞研究の倫理
15. 日 時:平成 28 年 1 月 21 日(木)
演 者: 清水 厚志先生 岩手医科大学 災害復興事業本部 いわて東北メディカル・メガバンク機構
生体情報解析部門 部門長代理 特命教授
演 題:ヒトゲノム情報を活用した次世代型予防医療の実現に向けて
16. 日 時:平成 28 年 3 月 10 日(木)
演 者: 洪 実先生 慶應義塾大学医学部 教授坂口光洋記念 システム医学講座
演 題: 幹細胞のゲノム安定性を担う ZSCAN4 遺伝子: エピゲノム制御機構とその治療への応用
17. 日 時:平成 28 年 4 月 5 日(火)
演 者: 伊藤 充輝先生 University of Cambridge, Department of Genetics・Research associate
ケンブリッジ大学・遺伝学部門・リサーチアソシエイト
演 題: ヒト iPS 細胞の分化能を評価するエピジェネティックなバイオマーカーの検索
18. 日 時:平成 28 年 4 月 15 日(金)
演 者: 宮岡 佑一郎先生: 東京都医学総合研究所 再生医療プロジェクト プロジェクトリーダー
演 題: iPS 細胞におけるゲノム編集のデジタル PCR による検出と疾患モデルへの応用
19. 日 時:平成 28 年 4 月 22 日(金)
演 者: 三浦 郁夫先生 広島大学大学院理学研究科附属両生類研究施設遺伝情報・環境影響研究グループ
准教授
演 題: 性染色体のリサイクル **Recycling of a sex chromosome**
20. 日 時:平成 28 年 6 月 20 日(月)
演 者: 小原 有弘 先生 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 培養資源研究室
演 題: 研究を支えるバイオバンクのあり方とその課題
21. 日 時:平成 28 年 7 月 14 日(木)
演 者: 林 洋平 先生 筑波大学医学医療系 遺伝子制御学グループ・助教
演 題: iPS 細胞における環状染色体からの片親性ダイソミーへの細胞自律的生成の発見からの新規染色体
修復法の可能性
22. 日 時:平成 28 年 7 月 28 日(木)
演 者: 菱山 豊先生 AMED 執行役
演 題: 日本医療研究開発機構 (AMED) の役割
23. 日 時:平成 28 年 9 月 9 日(金)
演 者: 下澤 伸行教授 岐阜大学 生命科学総合研究支援センター ゲノム研究分野

演 題：ペルオキシソーム病 ～拡大する疾患概念と副腎白質ジストロフィー

24. 日 時：平成 28 年 9 月 20 日(火)

演 者：石原 理先生 埼玉医科大学産婦人科 教授

演 題：生殖医療の衝撃

25. 日 時：平成 28 年 11 月 29 日(火)

演 者：今井由美子教授 秋田大学大学院医学系研究科情報制御学・実験治療学講座

演 題：ウイルス-宿主核内相互作用を標的としたウイルス感染症治療薬の可能性

<ポスター発表>

別添

<他施設との交流セミナー>

概 要：(独) 国立国際医療研究センターと(独) 国立成育医療研究センターとの若手研究者交流会

タイトル：『第 1 回 NCCHD-NCGM 合同若手会』

日 時：平成 28 年 12 月 5 日(金)

場 所：国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所中会議室

1. 演 者：分子内分泌研究部 五十嵐 麻希 研究員

演 題：性分化疾患・性成熟疾患の遺伝子解析

2. 演 者：細胞医療研究部 福田 篤 研究員

演 題：マウス初期胚におけるインプリント型 X 染色体不活化制御機構の解明

研究所ポスター発表会
12月14日16:00-17:45 (二階ロビー)

ポスター説明 発表4分 質問2分	座長	演題 番号	発表者名	演題名
大学院生の部 16:10-16:52	森崎	1	Amarjargal Dagvadorj (政策科学研究部)	Maternal and child health handbook influence on child cognitive development in Mongolia
	森崎	2	三瓶 舞紀子 (社会医学研究部)	集団的効力(Collective efficacy)と児童・青年期の歯磨きとの関連
	森田	3	齋藤 剛志 (システム発生・再生医学部)	Dlk1-Dio3インプリンティングドメインにおける父方IG-DMRの役割
	森田	4	磯 まなみ (ゲノム医療研究部)	小児特発性膵炎患者における膵炎関連遺伝子の解析
	森田	5	三谷 温 (再生医療センター)	Spatiotemporal alteration of Oct4 protein in mice preimplantation development
	森田	6	本村 健一郎 (免役アレルギー・感染研究部)	Double-stranded RNA regulates BCL2 family molecules and induces apoptosis in human cultured syncytiotrophoblasts.A possible mechanism for pregnancy complications?
	森田	7	勝見 桃理 (分子内分泌研究部)	妊娠41週以降に分娩に至った母娘例におけるMAMLD1遺伝子1塩基置換の同定
研究員の部 17:00-17:42	乾	8	高橋 シリラット (成育遺伝研究部)	Evaluation of engraftment of transduced cells in gene therapy for adenosine deaminase (ADA) deficiency
	乾	9	松田 剛 (高度先進医療研究室)	EBV関連リンパ増殖性疾患モデルマウスでの腎臓の腫瘍化に關与するEBVおよび宿主遺伝子発現解析
	乾	10	上野 瞳 (小児血液・腫瘍研究部)	Comparative analysis of DNA methylation in pediatric renal tumors
	乾	11	大西 英理子 (周産期病態研究部)	16S rDNA Amplicon Sequencing from Amniotic Fluid in Case of Intrauterine Infection
	乾	12	李 少偉 (RI管理室)	Macrophage specific delivery of TNF- α siRNA complexed with schizophyllan inhibits fatty-induced inflammation and fibrosis in murine NASH models
	乾	13	青砥 早希 (メディカルゲノムセンター)	成育ゲノム医療の推進に向けたデータベース構築
	乾	14	中島 英規 (マスキリーニング研究室)	An enzyme assay mass screening system for adenosine deaminase deficiency from dried blood spots using a DART ion source combined with triple quadrupole mass spectrometry
		15	Kyaw Htet Aung (薬剤治療研究部)	Arginine vasopressin V1b receptor is involved in the regulation of cell growth and neurite outgrowth in PC12 cells

15:45-16:00 ポスター貼り付け

16:10-16:52 ポスター説明 (大学院生の部 7名)

17:00-17:42 ポスター説明 (研究員の部 7名)

ポスター説明持ち時間は一人6分 (発表4分・質疑応答2分)